

# 中期五ヶ年経営計画のための事業評価シート

【一般社団法人ばんえい競馬馬主協会】

<計画年度:平成29年度～平成33年度>

事業名	生産振興等事業	定款条項	第4条第1項第2号事業【重種馬の生産振興及び流通促進に関すること】	評価年月	平成29年1月
-----	---------	------	-----------------------------------	------	---------

事業運営方針	○北海道遺産にも登録されている重種馬の生産振興及び改良促進と馬文化の継承を図るための事業を行う。				
本計画の目標	1	北海道、東北地区における祭典ばんば大会奨励	3	馬の改良と増殖推進のため、ばんえい競走経歴馬を種雄馬として幹旋を推進	
	2	北海道内における馬の共進会、品評会等開催への協賛、支援			
具体的な取組み	1	祭典ばんば、共進会等支援事業(北海道、東北地方の各市町村における祭典ばんば大会へ賞状及びトロフィーの提供)		2	種雄馬幹旋事業(「公社」日本馬事協会へ優良なばんえい競走経歴馬を種雄馬として選定幹旋を行う)

◎過去五ヶ年の事業費の推移(正味財産ベース) (単位:千円)

年度		平成24年度 (実績)	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (予算)
経常収益		525	884	711	894	1,000
内 訳	馬事協会協力金	100	100	100	100	200
	種雄馬負担金	425	784	611	794	800
経常費用		3,271	3,692	3,464	3,382	3,946
内 訳	生産振興等事業費	826	1,057	817	966	1,330
	事業管理費	2,445	2,635	2,647	2,416	2,616
経常外費用		0	0	0	0	0
他会計振替額		2,746	2,808	2,753	2,488	2,946

◎本事業の現状と課題等

【現状】 ①重種馬の生産振興は、生産者の高齢化、後継者不足などの要因から、生産頭数や飼養頭数減少の構造的な問題を抱え、抜本的に解決するのは極めて困難であるが、身近な出来ることを長く継続していく事が重要であり、今後に於いても生産への還元という基本的な視点で考えていく必要がある。	【課題】 ①種雄馬幹旋については、近年、幹旋配置先の希望する馬が一頭に集中する傾向にある事から、毎年、三頭を幹旋する計画であるにもかかわらず、ここ数年、一、二頭にとどまっている。今後は予算の増額も含め選定幹旋方法の仕組みを見直すなど、購買頭数が増える取組みを行う。(現行3頭 750万円)
---	---

◎本事業の今後の方向性等(見直し改善案等)

【方向性】 ①全道各地で実施されている祭典ばんば、草ばんば大会や馬共進会、品評会、展示会に対する協賛、支援内容の見直しについて検討する。 ②(公社)日本馬事協会種雄馬購買馬の幹旋事業について、馬の市場売買価格高騰に伴い購買予算額の増額について要請する。【日本馬事協会】	【見直し改善(案)】 ①祭典ばんばに対する協賛、支援内容の充実を図る。 ②種雄馬購買馬の幹旋事業は、日本馬事協会へ購買予算額の増額を要請する。
--	---

◎評価基準

A	現行の事業規模・同内容で継続する	必要性	◎
B	現行の事業規模を拡大し、同内容で継続する	妥当性	◎
C	現行の事業規模を拡大し、内容を見直して継続する	有効性	◎
D	現行の事業規模を縮小し、同内容で継続する	効率性	○
E	現行の事業規模を縮小し、内容を見直して継続する	公平性	○
F	現行の事業内容を見直して継続する	予算規模	△
G	この事業は目的を達成したので廃止又は休止する	執行体制	○

【総合評価・意見等】

種雄馬幹旋事業については、一頭でも多く競走馬を種馬として購買してもらえるように、幹旋方法、購買予算額の設定方法等、予算増額も含め日本馬事協会に要請する。また、祭典ばんばへの支援については、これまで同様、賞状及びトロフィーを提供することで、当面の間継続していく。

判定

C